

二〇一五年を職員と子どもたち全員が元気で迎えることができましたことを皆様に感謝申し上げます。  
 東日本大震災から間もなく四年になるうとしています。私たちにとってこの四年間は、園舎の再建や家庭的養護の推進など震災を機に色々なことにチャレンジすることの多い四年間でした。

一昨年は、園舎の再建と親子訓練棟の改修工事、昨年は体育館の補強工事を行い、計画していた建物等の整備を予定通り終えることができました。震災以降、使えなかった体育館は、子どもたちにとって、身体を

新年あけましておめでとうございます  
 二〇一五年を迎えて  
 児童養護施設 一関藤の園 園長 マウエル・クリスタ  
 おもいきり動かす大切な場所として安心して使えるようになりました。  
 昨年の十一月十九日には、四年ぶりのクリスマス会を開くことができ、職員と子どもたちが一体となって、新鮮な気持ちで聖劇やハンドベルなどを一生懸命練習し、お出で下さった皆様に大変喜んで頂きました。  
 私たちは、沢山の方々に支えて頂いていることを忘れずに感謝の心を持って過ごしたいと思っております。  
 新年を迎え、家庭的養護を充実させ一人ひとりの子どもの自立につながる支援を深めていきたいと考えております。  
 今年もご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



4年ぶりのクリスマス会  
 聖劇の場面。はじめて参加した子どもたちも多く、練習の時間も限られていましたが、みんな堂々と演じ切ることができました。

養育とは、子どもたちが自分の存在について、「生まれてきてよかった」と思い、自信を持てるようになることを基本とします。子どもたちは、自分の存在を包み込んでくれる温かさや無条件に愛されている雰囲気を実感したときに、生への不安を乗り越え、大きく成長していくと言われます。特に、カトリック施設



児童養護施設 一関藤の園  
 〒021-0061 一関市山目字館 2-5  
 Tel 0191-23-1544 Fax 0191-23-1545  
 http://www.fujinosono.or.jp  
 E-mail ichi.fujinosono@mirror.ocn.jp  
 発行責任者 マウエル・クリスタ

を標榜する私たちは、何よりも子どもたちを温かく包み込む施設でなければならぬと考えています。  
 この三月に卒業するSさん、動物看護士の資格を取って、動物を助ける仕事に就きたいという夢を持っています。そのためには、専門学校に進学しなければなりません。経済的な理由から進学を断念せざるを得ません。いったん就職してお金を貯めてから専門学校に行き、必ず動物看護師

を標榜する私たちは、何よくなる話しています。全国の高卒後の進学率は六割を超えていますが、児童養護施設の子どもの進学率は三割にも達していません。在園している子どもたちの中には、看護師、保育士、調理師になりたいという夢を持っています。この子どもたちの夢を叶えることができるような支援が必要だと思います。

職員が雪かきをしていると何人かの子どもたちが手伝ってくれます。幼児さんも自然に外に出てきて一緒に雪かきをしてくれます。台所では、小学生がお米を研いだり、野菜を切ったり職員と一緒に食事の準備をしています。  
 小さい頃から職員(大人)と一緒に見たこと、聞いたこと、体験したことは、「三つ子の魂、百までも・・・」のたとえのとおり、この子どもたちの原風景となって、その後の人生の大きな礎となります。きっと、この子どもたちは、大きくなって手伝えることを厭わないでしょう。



### 卒園生との野球大会

8月13日、恒例となっている卒園生 VS 在園生・職員の野球の試合がありました。野球のためだけに駆けつける卒園生もいて、和やかな雰囲気の中にも負けられない、打ちたいという意地と意地とがぶつかり合う真剣な試合となりました。

試合の間には卒園生から近況を聞いたり、また在園生と卒園生の交流の場になったり、とても良い時間を過ごすことができました。試合が終わったあとの卒園生との慰労会では、試合を振り返った、思い出話に花が咲きました。まだまだ若いと思っただけでも年節的にだいぶツツなくなりましたが、身体の続く限り、これからも続けたいと思っています。



### みんな、がんばった運動会

10月11日、藤の園の運動会がありました。ご父兄や学校の先生方にも大勢応援に駆け付けていただき、子どもたちも元氣いっぱいグラウンドを駆け回りました。

この運動会は、自治会(中高生の自治組織)が中心になって競技内容や役割などを決めて行なっています。競技内容は子どもたちが考えたオリジナルなものも多く、時には笑いを誘ったりします。最後の子どもも大人も参加した紅白リレーでは、大声援を受けながら、みんな本気モードで走っていました。

また、当日は学生のボランティアさんにも手伝っていただき、良く晴れた秋のものと穏やかな一日を過ごすことができました。ご声援ありがとうございました。



### あじいちゃん、おばあちゃん また来たよ

11月22日、ライオンズクラブのみなさんと特別養護老人ホーム福光園を訪問しました。

中高生のハンドベルでは「ふるさと」を演奏し、音色に合わせてみんなで一緒に歌いました。また幼児さんや小学生は、元気に妖怪体操の踊りをお見せすることができました。帰る時には、子どもたちがあじいちゃん、おばあちゃんにプレゼントを渡しながらか「元気でいてくださいね」、「また来ますね」と声を掛けていました。

短い時間でしたが、あじいちゃん、おばあちゃんと交流ができて、とても良い時間を持つことができました。また、来年きますね。



### サンタさん 今年も来てくれてありがとう!

12月5日、サンタニコラオのお祝いに合わせて、一関地区遊技場組合青年部のみなさんからクリスマスプレゼントをいただきました。

ろうそくに火をともし、ワクワクしながらサンタさんを待っていると、大勢のサンタさんやトナカイがやってきて、子どもたち一人ひとりにプレゼントやケーキを渡していただきました。子どもたちは、サンタさんやトナカイに会えて大喜び。最後に子どもたちからサンタさんへ「来てくれてありがとう」とお礼の手紙や絵を渡しました。

ステキなプレゼントをありがとうございました。(来年また来てくれるといいな)



### 幼児さんのおでかけ

元氣な幼児が8名います。お出かけ大好き。いつも親子広場や図書館に出かけます。行くと、たくさんのお友達と遊んだり、けんかをしたり、また道行く人にあいさつしたりと、良い関わりに恵まれています。

特に、親子広場の方々と菜の花プラザの方々にはいつも声をかけていただいています。多くの方々に温かく育ていただき、ありがとうございます。



### ミシュリン先生の英会話教室

カナダ人のミシュリン先生による英会話教室をはじめました。毎週金曜日の夕食後から1時間程度、現在、中高生5人が楽しみながら英会話を習っています。

先生によると、生徒達の発音はとってもよろしいとのこと、覚えも早いとのこと。

小学校や中学校でも英語教育に力を入れています。英語が分かれば色々な可能性が広がります。ILCが誘致されれば外国の人たちとの交流の機会も多くなります。当園にも外国のお客様が時々いらっしゃいます。小さな一歩でも世界中の人たちと仲良くなるために、このレッスンがきっといつか役に立つ日が来ると思います。







ぞうめんまだかな? (ライオンズ夏祭り)



新幹線かっこいい☆ (一ノ関駅にて)



将来の事は保育士さん? (藤保育園職場実習)



消火ならホクに任せて! (消防署見学)



えらいでしょ お皿だって洗うんだから!



ちょっとこわいけどやってみるか (サマーキャンプにて)



THE男の料理! (食育実習)



悪い子はいねえ〜があ〜! (転地養護・秋田ふるさと村)



キャ〜 助けて! ポールの海にしずんじゅう〜



みなさんのおかげで 元気に過ごしてま〜す!



気を入れていこうぞ! オォ〜! (サマーキャンプにて)



そうか こうやってだっこするんだね (性教育から)



もっと上までのぼれるよ! (新しくなった体育館で)



試合が終わって・・・ (BBS球技大会)



ガンバレぎんじ選手! ガンバレ楽天! (楽天招待)



うちでもワンちゃん 飼おうよ



ふう〜 おなかいっぱい! ごちそう様でした! (やまなか家さん招待)



わかった! 次は、ほくの出演だね



サンタさん、プレゼントありがとう! (サンタ・ニコラオ)

### CAPのワークショップ

CAPは、(Child Assault Prevention)の頭文字で子ども自身がいじめや虐待、誘惑や性被害などの様々な暴力から自分の心と身体を守るための人権教育プログラムです。1970年代にアメリカで開発され、現在では世界10数か国で実施され、日本には1990年代から各地で実施されるようになりました。

私たちの施設でも、CAP岩手のみなさんのご協力をいただいて職員のワークショップと小学生のワークショップを行いました。小学生のワークショップでは、安心・自信・自由をキーワードに寸劇を交えて、いじめや性被害に遭いそうになったときの対処方法や不審者から身を守る具体的な方法などを分かりやすく教えていただきました。

子どもたちにとっても職員にとっても大変有意義なワークショップとなりました。

### 体育館の改修工事終わる

昨年6月に耐震診断を実施し、補強が必要なことや亀裂等が多数見られることから改修工事を行いました。

10月末にすべての工事が終わり、震災以降使えなかった体育館がやっと使えるようになりました。改修工事では、耐震補強はもちろんのこと、内外の壁面とガラス戸などを全面改修し、トイレもすべて新しくしました。また、補強した壁面にはフリーライミングの遊具を取り付けました。

冬でも子どもたちがおもいっきり身体を動かせる場所ができたこと、また色々なイベントにも使えるようになりました。

民区のみなさんをはじめ地域のみなさんにもぜひ活用して頂きたいと考えております。



### 生活自立訓練

卒園を控えた高校三年生などを対象に生活自立訓練を実施しています。一週間から一か月程度の期間、慣れない一人暮らしを体験し、戸惑うことも多々ありますが、失敗した経験を大切にしながら卒園後の生活に活かそうというものです。

体験した子どもたちの感想を少しご紹介いたします。  
・一か月近くたったから作れる料理がかなり増えた。材料を残さず使い切れるように色々考えた。朝ごはんも弁当を手際よく作れるようになった。ゴミの分別とか出す日が分からなかったけど少し分かるようになった。自分が好きなように時間を使えた。(高ニ・Sさん)  
・ゆったりと生活できたこと。また、食事について色々考えることができて良かった。最初、部屋の温度調整が出来ず、給油の仕方がわからなかった。食材を長く保管していたので、一部の色が悪くなっていたりと衛生上良くなかった。その他に部屋の掃除を怠ったところもあり、自立出来ていないと思えるところが少なくないと思った。(高ニ・Mさん)



### ようこそミカエルホームへ

子どもたちは本園にある6つのユニットと地域小規模児童養護施設で生活しています。7つのホームにはそれぞれ大天使や聖人の名前がついています。今回はミカエルホームをご紹介します。

我がミカエルホームは、甘え上手な男の子(小1)、やんちゃだけどちょっとシャイな男の子(小2)、とっても仲の良い双子の兄弟(小3)、そして夕食にご飯二合を平らげ、本気で甲子園を目指している高校球児(高2)と個性溢れる男の子5名で構成されています。小学生4名は、行事の準備や休日のホームの掃除等をよく手伝ってくれるのでとても助かっています。また、ユニットになって調理をする機会が増え、時間があれば味噌汁作りや魚焼き、お米を研いでくれることもあります。年子の小学生4人の喧嘩が多いホーム(特にテレビのチャンネル争いは毎日)ですが、一人ひとりはとても優しいキッズ達です。練習等でホームにいる時間が少ない高2男児も、普段は口数が少ないけど実は、優しい男の子♡頼りになる存在です。

「団結力」と言う言葉は、ミカエルホームではまだまだ学習中ですが…なんだかんだと毎日ハプニングありサプライズありで、とても愉快?なホームです。

さあ〜、今日も一日がんばるぞ!



今日はハンバーグ作るぞ!



絵画コンクールで入賞したよ